

to have been inserted.

Mr. Burnett. Yes; "treaties, conventions, or agreements"; and it was merely for the purpose of covering cases that "conventions" only could reach that the word was put in—"treaties, conventions, or agreements."

Mr. Moore. That was to conform to the phraseology later on?

Mr. Burnett. Yes.

M. Moore. Will the gentleman explain, before he moves the previous question, whether the insertion of these treaty and convention paragraphs means that the treaties had with other nations—"treaties, conventions, and agreements—with respect to passports are to be observed, so far as the rights of the foreign nations are concerned.

Mr. Burnett. Yes; that is correct.

Mr. Moore. That is to say, if any question like that of the Jewish question coming up from Russia should be raised, there would have to be a respect for the treaty or agreement had with that nation, and notice of abrogation would have to be given in the usual way?

Mr. Burnett. Yes; I suppose so.

Mr. Moore. Would that apply to any agreement had with respect to the Chinese and Japanese?

Mr. Burnett. I think "treaties, conventions, and agreements" would apply to what the gentleman understands is a gentleman's agreement as to Japanese.

Mr. Moore. Yes. There is a gentleman's agreement there, though I understand there is a dispute as to its binding qualities.

事項三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件

一〇九 三月二十九日

加藤外務大臣 會談
在本邦米國大使

國際平和委員會設置條約ニ日本ノ参加方米國

大使示唆及日本ノ消極的態度ニ關スル件

附記 米國國務長官「ブライアン」氏ノ平和提案ニ
關スル調書摘要

大正四年三月二十九日米國大使來省ノ際平和國際委員會ニ
關スル條約案ハ貴國及獨逸ヲ除ク外關係諸國悉ク調印シタ
リトテ暗ニ日本ノ参加ヲ督促スル如ク見エタルニ付大臣ハ
当方ニ於テモ折角考量中ナルガ加州ノ土地法問題等ノ尚今
ノ如キ狀態ニ在ル間ハ進テ之ニ参加スルコト如何アランカ
ト考ヘ居レリト述ヘラレタルニ大使ハ同地方ノ問題モ近頃
ハ余程都合ヨキ方ニ向ヒ來リ一般ノ意向モ漸次改善ニ赴キ
ツツアルコトハ事實ニシテ本使ノ常ニ欣幸トシ居ル所ナリ
ト述ヘタリ

(附記)

米國國務長官「ブライアン」氏ノ平和提案ニ

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一〇九

關スル調書摘要

第一 「ブライアン」氏平和提案ノ發表及内容

大正二年四月二十四日米國國務卿「ブライアン」氏ハ駐米
各國代表者一同ヲ招キ予テ同官ニ於テ抱懷セル國際平和維
持ニ關スル一考案新ニ大統領ノ同意ヲ得タル趣ヲ以テ其綱
領ヲ發表シ各代表者ニ對シ本國政府ニ報告シテ其好意的考
慮ヲ促サムコトヲ冀望セリ

右ノ會同ニ於テ同時ニ國務卿ヨリ各代表者ニ交付セラレタ
ル該考案趣意書ノ内容次ノ如シ

締約國間ニ發生セル紛争ニシテ外交手段ニ依リ解決スル
コトヲ得サルニ至リタルトキハ其紛争ノ性質如何ヲ問ハ
ス一切之ヲ擧ケテ締約國間ニ合意セラルヘキ方法ニ依リ
テ組織スル國際審査委員會ノ審査ニ附シ而シテ締約國ハ
右審査委員會ノ報告書ノ提出セラルルマテハ宣戰又ハ開
戰セサルヘキコトヲ約スルコト

右ノ審査ハ締約國ノ執レヨリモ請求ノ形式ヲ要セスシテ

委員會ノ發意ニ依リ当然実行セラルヘキモノト為スコト
報告書ハ紛争事項ヲ審査ニ附シタル日ヨリ締約國間ニ合
意セラルヘキ一定ノ期間内ニ之ヲ提出スヘキコトト為シ
而シテ右ノ報告書提出後ハ各締約國ハ紛争事項ニ関シ自
由行動ヲ執ルノ權利ヲ留保スルコト

尚右國際審査委員會ノ組織並審査報告書提出ノ期間ニ付テ
ハ趣意書中ニ謂ヘル如ク当事國双方ノ約定ニ委スルコトト
ナリ居ルモ此等ノ点並審査中当事國ノ義務ニ関シ更ニ米國
政府ノ提供セル案次ノ如シ

一、國際審査委員ハ之ヲ五名トシ左ノ方法ニ依リ之ヲ組織
ス

締約國双方ノ政府ニ於テ各自国民中ヨリ一名宛ノ委員ヲ
選定スルコト

締約國双方ニ於テ各締約國以外ノ国民中ヨリ一名宛ノ委
員ヲ選定スルコト

第五ノ委員ハ兩國政府ノ合意ニ依リ之ヲ決定スルコト

右ノ委員等ハ條約締結後成ルヘク速ニ之ヲ任命スルコト
欠員ヲ生シタルトキハ最初任命ノ方法ニ從ヒ之ヲ補充ス
ルコト

第二 各國ノ態度

右ノ考案ニ對シテハ英仏伊ヲ始メトシ主義上賛同ノ意ヲ通
告セルモノ發表後一ヶ月内外ニ於テ十有四ヶ國ニ及ヒ一方
ニ於テハ國務卿ノ熱心ニ該案ノ遂行ニ努力スルアリ今日ニ
於テハ該案ノ趣旨ヲ包含セル一般平和條約ノ締結セラレタ
ルモノ実ニ二十有八個ニ達セリト云フ今其對手國並調印ノ
日附ヲ列掲スレハ次ノ如シ

サルバドル	一九一三・	八・	七
グアテマラ	一九一三・	九・	二〇
ホンデュラス	一九一三・	一一・	一二
ニカラグア	一九一三・	一二・	一七
和蘭	一九一三・	一二・	一八
ボリビヤ	一九一四・	一・	二二
彼斯	一九一四・	二・	四
葡萄牙	一九一四・	二・	四
瑞西	一九一四・	二・	一三
コスタリカ	一九一四・	二・	一三
ヴェネズエラ	一九一四・	三・	二一
丁抹	一九一四・	四・	一七

二、期間モ亦協議ニ讓ルコトニ成リ居レルカ之ヲ一年ト為
サムコトヲ提言セムト欲ス尤モ若シ一年ニシテ長キニ過
クルカ又ハ短キニ過クルナラハ米國政府ハ更ニ之カ伸縮
ヲ考量スヘシ

三、米國政府ハ若シ締約國ニシテ希望セハ審査期間中陸海
軍備ニ関スル現状維持ノ問題ヲ本件考案中ニ包含セシム
ルコトヲ考量スルノ覺悟ナリ依テ締約國ノ執レカ一方ニ
於テ第三國ヨリ危險ヲ受クルノ虞アルカ為已ムヲ得サル
場合ノ外審査期間中其陸海軍備ニ變更ヲ加ヘサルコトト
為サムコトヲ玆ニ試ニ提言セムトス而シテ第三國ヨリ危
險ヲ受クルノ虞アル國ハ内密ニ書面ヲ以テ此旨對手國ニ
通告スルニ於テハ其陸海軍備不變更ノ義務ヲ免除セラル
ルト同時ニ對手國モ亦同一ノ義務ヲ免除セラルルコトト
為スヘシ右ノ方法ハ通常ノ場合ニ於テ各締約國ヲ對手國
ニ對シテ保護スルニ足り而カモ緊急ノ場合ニ行動ノ自由
ヲ得セシムルモノナリ

尚注意スヘキ一事ハ右考案ニ所謂國際審査委員會ハ海牙條
約ノ定ムル所ト異リ國際紛争ノ性質ヲ問ハス一切ノ問題ニ
涉リ且ツ強制的ナルコト是ナリ

伊太利	一九一四・	五・	五
諾威	一九一四・	六・	二四
ペルー	一九一四・	七・	一四
ウルグワイ	一九一四・	七・	二〇
アルゼンチン	一九一四・	七・	二四
ブラジル	一九一四・	七・	二四
智利	一九一四・	七・	二四
パラグワイ	一九一四・	八・	二九
英吉利	一九一四・	九・	一五
仏蘭西	一九一四・	九・	一五
支那	一九一四・	九・	一五
西班牙	一九一四・	九・	一五
露西亞	一九一四・	一〇・	一
エクワドル	一九一四・	一〇・	一三
瑞典	一九一四・	一〇・	一三
希臘	一九一四・	一〇・	一三

第三 日米交渉ト日本ノ態度

当初珍田大使ノ報告ニ接セル帝國政府ハ當時恰モ加州問
題ノ懸案アリ從テ右考案ニ對シ帝國政府ノ意見ヲ發表スル

コトハ内外ニ於テ誤解ヲ惹起スルノ虞アリトノ見解ニ基キ暫ク回答シ兼ヌル旨大正二年五月二十六日附珍田大使宛電訓ヲ以テ米國政府ニ通スル所アラシメタリ

然ルニ爾來内外ノ形勢大ニ推移シ事情ニ於テ当初ト異ナルモノアリ仍テ帝國政府ニ於テモ右提案ノ商議ニ応スヘキヤ否ヤニ付篤ト考察ヲ加フルコトニ決シ大正三年九月十二日附ヲ以テ先ツ右ニ関スル珍田大使ノ意見ヲ徵スルコトトセリ同大使ニ於テハ從來該案ニ對スル帝國政府ノ立場カ加州問題ノ解決ヲ其先決條件トセルノ事實ニ鑑ミ此際態度ヲ一變スルノ不得策ナルヲ述ヘ外交上當面ノ問題一段落ヲ見サル間ハ飽迄右ノ商議ヲ回避スヘキコトヲ上申セリ

然レトモ政府ノ見解ニ於テハ該案ニ對スル從來ノ態度ヲ維持スルモ加州問題ノ解決ニ資スル所尠ク又米國政府屢次ノ申出ニ對シテモ適當ナル拒絕ノ理由ニ乏シク且ツ日英同盟ノ關係モアリ此際右提案ニ應シテ商議ヲ開始スルコト時宜ニ適フモノナリト云フコトニ決定セリト雖尚一応珍田大使ニ對シ右商議開始ヲ特ニ不利益トナス事情アリヤ否ヤ並米國提案ニ對シ修正ヲ要スル点ニ付重ネテ其意見ヲ徵スル所アリシニ同大使ニ於テハ更ニ此際右商議應諾スルコトハ此

盟協約トノ關係

一、海牙條約ニ依ル國際審査委員會ト「ブライアン」氏提案

(イ)國際紛争ノ平和的處理ニ關スル海牙條約ニ依ル國際審査委員會ノ場合ニ於テハ事件ヲ同委員會ニ附スルト否トハ自由ナルモ「ブライアン」氏提案ノ國際平和委員會ニ於テハ各締約國ハ事件ヲ當然委員會ノ審査ニ附スルヲ要ス

(ロ)前者ハ名譽又ハ重大ナル利益ニ關係セズ單ニ事實上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル國際紛争ニ關スルニ反シ後者ハ全テノ事件ニ關ス

(ハ)委員會ノ報告ニ拘束力ナキハ兩者同ジ

二、仲裁裁判ト「ブライアン」氏提案

(イ)仲裁裁判ハ判決ニ拘束アルニ反シ「ブライアン」氏案ニ依ル委員會ノ審査報告ハ何等拘束力ヲ有セズ

(ロ)前者ハ總括的又ハ特別的仲裁裁判條約ヲ締結シタル場合ノ外事件ヲ仲裁裁判ニ附スルト否トハ自由ナルモ後

者ニ於テハ事件ハ必ス委員會ノ審査ニ附スルヲ要ス

(ハ)前者ハ總括的仲裁裁判條約ヲ締結シタル場合ノ外裁判

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一一〇

種條約ノ効力ヲ過信スル米國ニ於ケル排日行動ニ惡影響ヲ及ホス虞アリトテ返ス返ス右條約締結ノ今日ノ情勢ニ応スル所以ニアラサルコトヲ述ヘ更ニ條約案ノ内容ニ付テハ次ノ意見ヲ答申セラレタリ

一、審査中軍備不變更ノ義務ニ關スル規定ヲ保存スルコト

二、右義務違反ニ關スル規定ヲ置クコト

三、審査期間ヲ六ヶ月トスルコト

四、審査委員改任ノ規定ヲ置クコト

五、其他ハ仏米條約ニ依ルコト

前記ノ如キ珍田大使ノ意見モアリ政府ハ再考量ノ結果暫ク本件條約ノ締結ヲ見合ハセタリ

大正三年十一月三日米國大使來省加藤外務大臣ト會談ノ序ヲ以テ同國際紛争處理條約ハ既ニ英仏露等ノ諸國モ調印シ一等國ニテ加入セサルハ日本ト独逸ノミナリト述ヘタルニ對シ大臣ハ同案加入ハ目下考案中ナリト答ヘラレタルカ當時加州ニ於テ再ヒ排日案ノ提出アルヤモ知レサル有様ナリシニ付米國ト本件條約ヲ締結スルカ如キコトハ大ニ慎重ノ態度ヲ執ルノ要アリト認メ本件ニ付何等措置ヲ執ラサリキ

第四 「ブライアン」氏平和提案ト海牙條約及日英同

ニ附スヘキ事件ノ範圍ヲ限ラルルモ後者ハ全テノ事件ヲ委員會ノ議ニ附スルヲ要ス

三、日英同盟協約ト「ブライアン」氏提案

本條約ノ締結ト日英同盟トノ關係ニ付テハ曩ニ英米間ニ右條約締結ノ商議進行中井上大使ヲシテ英國外相ノ所見ヲ敵カシメタルニ同大臣ハ右條約ヲ以テ性質上一種ノ總括的仲裁裁判條約ナリト認メ從テ日英同盟條約第四条ノ適用ヲ受クヘキモノナリト答ヘ尚日本モ米國ノ提議ニ應シ本件ニ付米國ニ對シ日英兩國カ同一ノ地位ニ立ツニ至ラハ好都合ナリト附言セリト云フ

其後英米間右條約成立後井上大使カ英國外務省ヨリ受取リタル覚書ニ依レハ右條約ハ「テクニカリー」ニハ總括的仲裁裁判條約トハ云ヒ難キモ其目的ニ於テ同一ナレハ日英同盟條約第四条ノ適用アリト説明セリ(終)

註 右「ブライアン」氏ノ平和提案ニ關スル調書摘要ハ當時(大正三年最後ノ四半期中)執務上ノ參考トシテ外務省政務局第二課ニ於テ作成シタル調書ノ摘要ナリ

一一〇 五月三十一日 在伯國烟公使ヨリ
加藤外務大臣宛

伯亞智三国間仲裁條約並此等各國ト米國トノ

間ノ國際平和委員會設置條約締結ニ関スル件

政公第四六号

(八月十一日接受)

大正四年五月三十一日

在伯

特命全權公使 畑 良 太 郎 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

亞爾然丁共和国首府「ブエノスアイレス」市発ノ新聞電報ニ拠レハ亜伯智^{エチビ}三国交歓ノ為メ同市ニ会合シタル伯国外務卿「ラウロ・ミューレル」氏智利国外務卿「アレハンドル・リラ」氏及亞国外務卿「ホセ・ルイス・ムラトウ」氏ハ本月二十五日亞国独立祭ノ当日ヲ以テ三国間ノ平和ヲ確保スル為メ頗ル広義ノ仲裁條約ニ調印シタリト伝ヘラレ続イテ伯国外務省及在伯亞国公使館ヘモ公報到達シ以テ該條約締結ノ事實ヲ確カメタルガ其条文ハ未タ發表セラレサルヲ以テ内容ヲ詳悉スルニ由ナシト雖トモ今日迄ニ得タル公私ノ報道ヲ綜合スルニ該條約ハ將來締約三国間又ハ其内ノ二国間ニ發生スルコトアルベキ紛争ニシテ当該国間ニ存在スル現行仲裁條約中ニ除外セルモノノ友誼的解決ヲ容易ナラシムル為メ各国一名ツツ委員ヲ選出シ都ベテ三名ヨリ

成ル委員団ヲ烏爾圭国首府「モンテヴィデオ」市ニ常置シ現行仲裁條約ノ規定ハ其假効力ヲ保タシメ此等條約ヲ以テ除外セル事項即チ法律上ノ問題トシテ提起スル能ハサル紛争及当該國憲法ノ本義ニ抵触スル事件ハ悉ク之ヲ一ケ年以内ニ該委員団ノ調査ニ附スヘク其調査進行中ハ干戈ニ訴ヘサルコトヲ相約スルモノナラント察セラル

而シテ米大陸諸國ハ近年頻リニ唱道セラルル全米主義ノ一要項トシテ盛ニ國際紛争ノ平和的處理ヲ鼓吹シ假令仲裁裁判附託主義ハ小弱國ノ防衛手段ニ外ナラサルノ誹ヲ免レサルトハ言ヘ此平和主義ガ米大陸諸國間ニ特ニ顯著ナル發達ヲ遂ケタルノ事實ハ何人モ之ヲ否定スルコト能ハサルベク就中伯國ノ如キハ北米合衆國ト共ニ仲裁主義ノ泰斗ニシテ伯國憲法中國會ノ權限ヲ規定セル条下ニ「仲裁ニ依託スル余地ナキカ又ハ仲裁裁判力不調ニ了リタル場合ニ於テ」初メテ宣戰ノ權限ヲ政府ニ附与スヘキコトヲ規定シ(第三十四条第十一)交際列國トノ仲裁條約締結ヲ以テ外務當局ノ一要務トシ海牙第二回平和會議ニ於テ國際紛争平和的處理條約ニ調印シタル外尚ホ現ニ三十一ヶ國トノ間ニ仲裁條約ヲ締結シ内既ニ批准交換ヲ了リテ有効中ノモノ二十九アリ

案)

就中最初ニ締結シタル二國ハ即智利及亞爾然丁兩共和国ニシテ前者トハ千八百九十九年五月十八日「リオ・デ・ジャネイロ」ニ於テ調印シ千九百五年三月七日「サンティヤゴ」ニ於テ批准交換ヲ了シタル後翌六年四月十四日ヲ以テ之ヲ公布シ後者トノ仲裁條約ハ千九百五年九月七日「リオ・デ・ジャネイロ」ニ於テ調印千九百八年十二月五日「ブエノス・アイレス」ニ於テ批准ヲ交換シ翌年一月七日之ヲ公布シタルガ此等條約ハ一般のナルモ而カモ仲裁ニ附スヘキ事項ニハ左記ノ如キ制限アリ

兩締約國ハ本條約ノ繼續期間ニ兩國間ニ起ルコトアルベキ紛争ニシテ其意見ノ衝突ヲ法律的ニ提訴スルコトヲ得ヘキモ而カモ此等爭議ニ関シテ直接商議ノ方法ニヨリ友誼的ニ解決スル能ハサルモノハ之ヲ仲裁裁判ニ附スルコトヲ相約ス(伯智仲裁條約第一条)

兩締約國ハ兩國間ニ起ルコトアルヘキ紛争ニシテ直接ノ商議若クハ國際紛争ヲ友誼的ニ處理スル其他ノ方法ヲ以テ解決スルコト能ハサルモノハ此等紛争ガ兩國ノ孰レカ一方ノ憲法ノ本義ニ抵触スル問題ニアラサル限りハ之ヲ仲裁裁判ニ附スルコトヲ相約ス(伯亞一般仲裁條約第一

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一一〇

今回三国間ニ調印セラレタル新條約ハ即チ如上ノ制限セラレタル諸問題ヲ一種ノ仲裁ニ附託セントスルモノニシテ彼ノ米國大統領ウキルソン氏ノ立案ニヨリ千九百十三年四月二十四日ヲ以テ起草セラレ上院ノ承認ヲ經タル上主義上二十九箇國ノ同意ヲ得タル広汎ナル義務の仲裁條約ト大同小異ナラザルベカラズ蓋シ亜伯智三国ハ孰レモ昨千九百十四年七月二十四日華盛頓ニ於テ北米合衆國ト該條約ヲ締結シタルガ其第一条ハ

兩締約國ハ其性質ノ如何ヲ問ハズ凡ソ兩國間ニ起ルコトアルヘキ紛争ニシテ外交手段ヲ以テ解決スルコト能ハサルモノハ總ベテ之ヲ第二条ニ從ヒテ組織セル國際委員団ノ調査ニ附シ其意見報告ヲ俟ツヘシ尚ホ兩國ハ審理結了シ意見報告ノ交附ヲ受ケザル間ハ宣戰ヲ布告シ若クハ戰端ヲ開カザルコトヲ約ス

ト規定シ其趣旨彼此殆ンド同一ニシテ只之ヲ南米モ強國ニ應用シタルモノニ外ナラズト思惟セラルルヲ以テナリ

又今回ノ條約ハ締盟三国ノ國會ニ於テ夫々承認ヲ經タル上之ガ批准ヲ交換スルニアラサレバ効力ヲ有スルニ至ラサル

モノナレトモ兎ニ角其締結ハ三國外相会同ノ好記念ニシテ
今後南米ノ平和ヲ維持スル上ニ大ニ与リテ力アルヘク同時
ニ全米主義ノ發達上更ニ一步ヲ進メタルモノト言フヘク輿
論ハ一般ニ此舉ヲ激賞セリ

右不取敢及報告候 敬具

一一一 六月二十五日

在智國飯島臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

亞伯智三國外相會見ニ関スル件

政機密第四号

(八月十一日接受)

大正四年六月二十五日

在智利

臨時代理公使 飯島 龜太郎 (印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

伯刺西爾国外相 Lauro Müller 亞爾然丁国外相 Jose
Murature ハ各自其隨員ト共ニ五月十七日当山茶郷市ニ来
着シ当国官民ノ熱狂セル歡迎ヲ受ケ四日間当市ニ滞在ノ上
智利国外相 Alejandro Lira 及其隨員モ右一行ニ加ハリ同
月二十日三外相手ヲ携ヘテ当市出發亜国首府「ブエノス・
アイレス」ニ到リ同処ニ於テ會見ヲ遂ケタリ世人此ノ三相

ノ企圖ニ反對ノ意ヲ表シ激烈ナル攻撃ヲ加ヘリ例ヘバ「ラ
・パス」市一新聞紙ノ如キハ論シテ曰クABCノ同盟締結
セラレンカ暮、祕、エクスアドル、古倫比亞ノ諸國ハ別ニ一
大同盟ヲ締結シテ以テ之レニ對抗スルノ覺悟ナカルベカラ
ズト

然ルニ右會見ヨリ實現セラレタル具體的結果トシテハ吾人
ハ僅カニ一ツノ國際紛争仲裁條約ノ締結ヲ見タルニ過キズ
(別紙訳文参照) 於此テカ世人ノ之レニ對スル杞憂ト危惧
トハ大ニ寛減セラレタルノ觀アリキ

但シ這般ABC三国ノ同盟ハ縱令具體的重要ナル結果ヲ齎
ラシ来ラサリシニセヨ吾人ハ其無形ノ効果ノ頗ル偉大ナル
モノ在リシコトヲ認メサル能ハス蓋シ世人ハ之ニ依リ南米
ニ此ノ如キ一ツノ鞏固ナル聯合勢力ノ存在スルコトヲ識認
スルニ至リタレバナリ而シテ更ラニ之レヲ詳言スレバ南米
ノ對外政策ガ徐ニ發展變化シ新傾向ヲ暗示シ来リタルモノ
トモ看取シ得ベキナリ

由來華盛頓政府ハ羅典亞米利加諸國ヲ自家棄籠中ノ物トナ
シ之レヲ操縱シテ一個ノ勢力ヲ作り自ラ活動ノ中心トナリ
其威望ト実力トヲ以テ暗ニ盟主ノ地位ニ立チ霸權ヲ振ヒ来

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一一一

ノ會見ヲ稱シテABCノ同盟ト云ヘリ

右三國外相ノ會合ハ屢々企圖セラレタルコトアルモ如奈セ
ン右三国間ノ國際干係ハ其實現ヲ困難ナラシメ殊ニ其會見
ノ場所ノ如キモ亦タ論議ノ種トナリ久シク決スルニ至ラザ
リシガ昨年十一月当市ニ開催ノ筈ナリシ第五回全米會議ヲ
好機トシ右三ケ国外相ノ外北米國務卿モ之ニ参加シ各自該
會議ニ参列ノ目的ヲ以テ当市ニ來遊ノコトニ協議纏リ之ニ
関スル儀式ノ如キモ亦干係諸國間ニ略ホ協定ヲ見ルニ至リ
シガ該會議ハ折柄歐洲戰乱突發ノ為メニ遂ニ無期延期トナ
リ右外相ノ會合モ自然其決行ヲ見スニ終ルニ至レリ然ルニ
輓近智伯兩國間ニ本件ニ関スル交渉再ヒ開始セラレ兩國政
府ヨリ亜国政府ヲ勸説シタル結果遂ニ亜都ヲ以テ三相ノ會
見地ト定メ名ヲ同國獨立祭参列ニ藉リ茲ニ三外相手ヲ携ヘ
テ同行會見ヲ遂クルコトナルニ至レリ

右三外相會見ノ噂世間ニ伝ハルヤ其目的ニ関シ世人ハ種々
ニ揣摩臆測ヲ逞フシ殊ニ他ノ羅典亞米利加諸國ノ如キハ右
會見ノ目的ハ三国ガ共謀シテ南米ノ霸權ヲ掌握シ殘余諸小
國ヲ願使操縱セントスルニ在ルモノトシテ大ニ危惧ノ意ヲ
表セリ乃チ烏爾圭及暮里比亞兩國首府ノ新聞紙ハ一斉ニ此

タリシガ其威望未タ足ラザル所アリ較モスレバ鼎ノ輕重ヲ
問ハルノ觀ナキニ非ザリシガ爾來羅典亞米利加特ニ南米
ノ教國ハ國運日ニ發達隆昌ニ向ヒ亦タ前日ノ如ク徒ニ拱手
以テ北米ノ願使ニ甘スルヲ好マズ自奮蹶起シテ自家ノ痛痒
ハ吾自ラ之レヲ癒ストノ意氣ト決心トヲ示シ自然北米ニ對
スル信頼心ヲ輕減スルニ至レリ而シテ之レト同時ニ利害干
係ノ共通密邇セル比隣ノ南米諸國ハ共同動作ノ必要ナルヲ
感シ漸次提携政策ヲ執ルノ傾向ヲ生スルニ至レリ

此ノ新傾向ハ墨西哥問題ニ関連シテ「ナイヤガラ・フォ
ー」會議ニ於テ始メテ其端緒ヲ示シタルガ其後時日ノ經過
ト共ニ益々顯著鮮明ヲ加ヘ來タリ遂ニハ北米政府モ亦此大
勢ニ抗スルノ不可ナルヲ觀取シ南米ニ對スル從來ノ高圧的
政策ヲ一變シ「ルーツ」氏ノ唱道セル所謂懷柔策ノ実行ニ
努メ或ハ著名ナル政治家學者ヲ南米天地ニ派遣シ交驩善解
ノ任ニ當ラシメ或ハ實業家ノ觀光團ヲ組織シ南米ニ渡航セ
シメテ彼此相互ノ商業的干係ノ發達進歩ヲ謀リ或ハ南米諸
國ノ財政当局者ヲ華盛頓ニ招致シテ全米財政會議ヲ開キ全
米ニ對スル經濟的及財政的政策ノ講究ニ資シ又タ一方ニハ
全米雜誌及其他ノ機關新聞ヲ利用シテ提携融和ノ得策ナル

ヲ唱道セシムル等種々画策スル所アリシモ奈如セン其制度慣習組織及感情ニ於テ大ニ反背乖離スル所アル為メ兩者ノ融和ヲシテ困難ナラシメ北米政府ノ所謂懷柔政策モ未タ以テ十分ノ効果ヲ奏スルニ至ラザルモノノ如シ之ヲ要スルニ這般三國外相ノ会見ハ南米ノ一勢力ヲ世界ニ標榜スル一種ノ「デモンストレーション」ニシテ南米大陸方面ノ問題ハ宜シク南米自ラ之レヲ解決スベク假令北米ノ参与ヲ必要トスル場合アリトスルモ其解決ハ必ス南米諸國ノ意志ノ尊重ニ俟タザルベカラズトノ政治的意見ノ表彰及声明ト見ルヲ適當トスベク而シテ此ノ傾向ハ今後益々顯著トナリ遂ニハ他ノ南米小國モABCノ政策ヲ踏襲シテ北米ノ勢力羈絆ヨリ脱出シ各自獨立不羈ノ態度ニ出デント努ムルニ至ルベク然モ此ノ傾向ハ自然ノ要求趨勢ニシテ畢竟スルニ南米諸國ハ今ヤ政治史上一大變遷ノ時機ニ遭遇シ將サニ新時代ノ思潮ニ遷移シツアルモノト謂フベキナリ

右報告申進候也

註 別紙訳文省略ス五月二十五日「ブエノス、アイレス」ニ於テ署名調印セラレタル重伯智三國間ノ國際平和委員會設置條約訳文ニ付テハ次掲一一二文書ノ附屬書參看

「ジャネイロ」ニ於テ批准交換ヲ了スルニ至ルヘク本條約所定ノ内容ニ關シテハ当初ヨリ厳ニ秘密ニ附セラレ之ヲ究明スルニ由ナカリシ所偶々當國議會ニ於テ討論中「本條約ハ憲法ノ條規ニ關スル國際事件ニ就テモ一定ノ平和的解決ノ方法ヲ講スルモノニシテ外交委員會之ヲ可決セリ」トノ委員會ノ報告アリタルニ對シ事務シクモ憲法ノ條規ニ關スル以上單ニ之ヲ外交委員ノミノ議ニ委ヌルハ不當ナリト論スルモノアリ當局ノ弁解アリタルニ拘ハラス下院ノ多數ハ本條約全文ノ公示ヲ迫リタルニヨリ政府ハ遂ニ十月五日ノ官報議會附録ヲ以テ是レカ全文ヲ發表スルニ至レリ

今其正文ヲ案スルニ本條約ハ一九一五年五月二十五日「ブエノスアイレス」ニ於テ伯智重三國外務大臣ノ調印ニカ、ルモノニシテ前文及本文七條ヨリ成リ主トシテ

一、伯智重三國間現行仲裁條約ノ専ラ法律問題タルニ適スル國際案件ヲ処理スルニ止マリ事ノ一國憲法ノ條規ニ關スヘキモノ若シクハ一國ノ獨立榮譽重大利益ニ關スルモノハ是ヲ仲裁附議ノ範圍外ニ置キタルニ鑑ミ本條約ニ於テハ苟シクモ外交ノ手續ヲ以テ解決シ得ラレサル國際案件ハ事ノ法律問題タルニ適スルト否ト又憲法上重大ノ問題タルト

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一一二

一一二 十二月六日 在伯國烟公使ヨリ
石井外務大臣宛

伯智重三國間ニ締結ノ國際平和委員會設置條約ニ關スル件

附屬書 右條約和訳文

政公第八六号

(大正五年三月六日接受)

大正四年十二月六日

在伯

特命全權公使 畑 良 太 郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

一九一五年五月中伯智重三國外務大臣カ公式ニ重都「ブエノスアイレス」ニ會シ國交上重要ナル意見ノ交換ヲナシタル結果所謂ABC條約ナルモノノ締結セラレタルコト並ニ右ハ當時内外ノ情報ヲ綜合スルニ三國間現行ノ仲裁條約ニ一步ヲ進メ假令ハ國ノ獨立榮譽重大利益ニ關スル紛議ニ關シテモ一応平和的解決ノ方法ヲ講セントスルモノニ外ナラザリシコトハ曩ニ本年五月十日附公第三七号同五月三十一日附公第四五号及第四六号拙信ヲ以テ詳細及報告置候通りニ有之候処其後右條約實施準備着々進捗シ近日既ニ關係各國議會ニ於テ之カ承認ヲ与ヘタルヲ以テ不遠當國「リオデ

否トヲ問ハス必ス一定ノ平和的解決方法ヲ講セントノ主旨

ヨリ「三國現行ノ條約及將來締結セラルヘキ條約ニヨリ仲裁裁判ニ附セラレサル總テノ國際案件」ニ付キ外交談判不調ノ節直チニ干戈ニ訴フルコトナク一応ハ是レカ審査ノタメ本條約ニ定ムル常設國際審査委員ノ議ニ附スヘキコト

二、常設國際審査委員ハ審査請求ノ時ヨリ三ヶ月以内ニ烏國「モンテビデオ」市ニ會合シ其成立ノ時ヨリ一ケ年以内ニ又若シ關係國特別ノ合意アリタルトキハ一年六ヶ月以内ニ審査ノ結果ヲ報告スヘキモノニシテ此期間ヲ過キテ報告ナキ時係爭各國初メテ其行動ノ自由ヲ恢復スヘク

三、審査委員會ノ報告ハ單ニ事件ノ真相ニ關シ委員會調査考究ノ結果タルニ止マリ仲裁裁判ノ場合ニ於テ仲裁者ノ判決力當該各事件ニ就キ當事國ヲ拘束スルト本質上大ニ其趣ヲ異ニスルコト

四、國際審査委員ノ組織ニ關シ本條約ハ其批准交換ノ後三ヶ月以内ニ締約各國各々一名ノ委員ヲ指名スヘク自國ノ任命ニカ、ル委員ハ何時ニテモ是カ任ヲ解キ得ヘキモ解任ト同時ニ後任者ノ指名ヲ必要トスト定メタル等
要之本條約ハ所謂國際審査委員會ニ關スル三國特別ノ約束

ニシテ一種ノ平和條約タルニ相違ナキモ仲裁裁判トハ全然其性質ヲ異ニシ且本審査委員會ノ常設委員會タルコトカ其眼目ナリト云フヘク此点ニ於テ本條約ハ曩ニ北米合衆國カ二十余國ト締結シタル「ブライアン」平和條約ト其軌ヲ一ニセルモノナリ

而シテ本條約ニ於テ処理セラルヘキ事件ニ關シ本條約ハ只消極的ニ「三國間ノ他ノ條約ニ拠リ仲裁ニ附セラレサル總テノ案件」トナスニ止マリ何等積極的ニ之ヲ指示スルコトナキモ既存ノ仲裁條約ト平行シテ互ニ其欠ヲ補ヒ大小總テノ國際案件ニ關シ兎モ角モ一応ノ平和的解決方法ヲ提供スルモノト云フヘク特定ノ事件ニツキ其果シテ現存ノ仲裁條約ニヨリ仲裁裁判ニ附スヘキカ又ハ本條約ニヨリ國際審査委員ノ議ニ附スヘキカハ個々ノ場合ニツキ決定スヘキ趣旨ナラン

以上ハ本條約ノ綱領ニシテ本條約實施ノ結果三國國交上又南米平和ノ上ニ如何ノ好果アルヘキヤハ茲ニ逆睹シ難キモ本来本條約ノ締結ヲ見ルニ至リタル單ニ外交辭令ノ交歓タルニ止マラス近時漸ク世人ノ注意ヲ喚起シ來レル全米主義ノ余波トシテ数年前迄ハ犬猿畜ナラサリシ伯智並三國力近

和國及伯刺西爾間ノ現行仲裁條約ハ第一ノ條約ニ於テハ法律案件トシテ提起シ得ラレザル問題又第二及第三ノ條約ニ於テハ各締約國ノ憲法ノ本義ニ關係スル問題ヲ孰レモ仲裁ノ方法ヨリ除外セルニ鑑ミ上記諸條約ニヨリ仲裁ニ附セザルコトナレル諸問題ノ友誼的解決ヲ容易ナラシムベキ辦法ヲ此際採用スルコトニ決シ此ノ目的ヲ以テ一ノ特殊條約ヲ締結スルコトニ同意シ之ガ爲メ伯刺西爾合衆共和國大統領ハ外務長官「ドクトル、ラウロ、ミューレル」少將ノ亞爾然丁共和國大統領ハ外務兼宗務長官「ドクトル、ホセー、ルイス、ムラトウーレ」氏ヲ智利共和國大統領ハ外務長官「ドクトル、アレハンドロウロ、リラ」氏ヲ孰レモ其全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議締結シタリ

第一條

將來締約三國間若シクハ其ノ内ノ二國間ニ何等カノ問題ニ原因シテ起ルコトアルベキ紛争ニシテ外交手續ヲ以テ解決シ難ク且現行條約若シクハ今後締結セラルル條約ニ從ヒテ仲裁ニ附セラレザルモノハ第三條規定ノ形式ヲ以テ組織セラレタル常設委員會ノ審議ニ附託シ其ノ調査報告ヲ求ムベ

時頗ニ親善ヲ加ヘ來リ民論亦三國ノ協同和衷ヲ利トナスニ至レル時代ノ傾向ニ胚胎スルモノニシテ條約其モノハ元三國平和ノ產物ナルモ因テ生シタル本條約カ翻ツテ又三國間ノ平和ヲ將來ニ増進スヘキ楔子タルハ信シテ疑ハサル所ナリ

(附屬書)

亞伯智三國間ニ締結ノ國際平和委員會設置條

約和譯文

伯刺西爾合衆共和國亞爾然丁共和國及智利共和國ノ各政府ハ其ノ志望及利害ノ一致ニヨリテ各當該國間ニ生ジタル意志ノ疏通ヲ此ノ機會ニ於テ確實ナラシメ且將來激烈ナル軋轢ノ發生ヲ防止シ以テ三國ヲ聯繫スル密接ナル友誼關係ヲ鞏固ナラシメンコトヲ欲シ其ノ國際政策ヲ指導スル協同平和ノ精神並ニ米州諸共和國ノ親睦ヲ逐日益々篤實ナラシムル爲メ協力セントノ確志ニ基キ而シテ三國ノ間ニ起ルコトアルベキ一切ノ紛争ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハズ之ヲ解決スル唯一方法トシテ仲裁主義ヲ遵奉セル千八百九十九年五月十八日ノ智利及伯刺西爾間千九百二年五月二十八日ノ亞爾然丁共和國及智利間並ニ千九百五年九月七日ノ亞爾然丁共

シ各締約國ハ本條約ノ定ムル委員會ニ於テ調査報告ヲ與ヘタル後カ又ハ第五條ニ規定セル一ケ年ノ期限經過後ニアラザレバ敵對行爲ヲ實行セザルコトヲ約ス

第二條

前條ノ規定ハ各締約國間ノ現在及將來ノ仲裁條約ニ規定セル所ノ約束ヲ毫モ制限スルコトナク又其等條約ニ從ヒ仲裁ヲ以テ既ニ解決シタルカ若シクハ今後解決スベキ問題ニ對スル仲裁裁決ヲ履行スベキ義務ヲ何等制限スルコトナキモノトス

第三條

第一條ニ規定セル常設委員會ヲ組織スル爲メ締約各國ハ本條約ノ批准交換後三箇月以内ニ夫々一名ノ委員ヲ指名スベシ各政府ハ事件審査ノ開始前ニ於テハ何時ニテモ自國委員ノ任命ヲ取消スコトヲ得ベシト雖右取消ト同時ニ後任者ヲ指定スルコトヲ要ス其ノ他ノ原因ニヨリ生ジタル缺員ハ當該政府之ヲ補充シ之ガ爲メ本條約ヲ以テ設ケタル規定ノ効果ヲ中止セシムルコト無カルベシ

第四條

第一條ニ謂フ所ノ紛争ハ之ヲ解決セントスル外交談判ガ失

敗ニ歸シタル後直チニ委員會ニ附託シ其ノ調査報告ヲ求ムベシ委員會ノ會合ハ紛爭ニ關係セル政府ノ内其ノ孰レヨリ之ヲ請求スルモ隨意タルベク而シテ他ノ二政府ニ對シテハ此ノ決定ヲ公然通知スルヲ以テ足レリトス

第五條

常設委員會ハ其ノ會合ノ請求アリタル後三ヶ月以内ニ「モンテヴデオ」市ニ於テ會合スベク而シテ其ノ任務遂行上遵守スベキ手續ノ準則ヲ定ムベシ何等カノ原因ノ爲メ既ニ三ヶ月ヲ經過スルモ該委員會會合スル能ハザル場合ニ於テモ本條ニ定ムル期間ノ効力ニ關シテハ仍チ之ヲ會合セルモノト見做スベシ各締約國ハ事件ノ來歴及審議ノ爲メ必要ナル報道ヲ供給スベシ委員會ハ其ノ成立シタル日より起算シ一ケ年以内ニ調査報告書ヲ提出スルノ義務アルモノトス若シ所定ノ期限内ニ審査ヲ結了セシムル能ハザルカ若シクハ調査報告書ヲ調製スルコト能ハザル場合ニハ所定ノ期限ヲ更ニ六箇月間延長スルコトヲ得ベシ但シ此ノ點ニ關シ締約國ノ合意アルトキニ限ル

第六條

調査報告書ガ當該政府ニ提出セラレタルカ又ハ所定ノ期限

政公第九〇号

(大正五年三月六日接受)

大正四年十二月十八日

在伯

特命全權公使 畑 良 太 郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

伯國ハ客年七月二十四日華盛頓府ニ於テ重爾然丁共和国及智利ノ二國ト同時ニ米伯間國際爭議友誼の處理條約ニ調印シタルコトハ本年五月三十一日附政公第四六号拙信中ニ引照致置キ候通りニシテ該條約ハ米國大統領「ウキルソン」氏カ千九百十三年四月二十四日ヲ以テ起草シ上院ノ承認ヲ經タル上二十余ヶ國トノ間ニ締結シ世ニ「ブライアン」平和條約ナル名称ヲ以テ知ラレタルモノニ有之候ニ付其性質内容等ニ就テハ當時在米帝國大使館ヨリノ報告ニ依リ御承悉ノコトト存セラレ候ヘ共本月六日附政公第八六号拙信ヲ以テ及報告候重伯智三國間國際紛爭平和の處理條約ハ全ク本條約ヨリ脱化セルモノト評スルコトヲ得ヘク現ニ過般伯國國會ニ於テ該ABC條約ヲ審議スルニ當リ彼は對照ノ爲メ特ニ下院ノ請求ニヨリ同時ニ之ヲ發表スルニ至リ候而シテ米伯兩國間ニハ千九百九年一月二十三日華盛頓府ニ於テ

三 米國提議ノ國際平和委員會設置條約關係一件 一一三

内ニ該報告書調製セラレザリシトキハ締約諸國ハ審議事件ニ關シ其ノ利益上適當ト思考スル處置ヲ執ル爲メ凡ベテ其ノ行動ノ自由ヲ恢復スベシ

第七條

本條約ハ之ヲ批准シ成ルベク速ニ「リオデジャネイロ」市ニ於テ其ノ批准ヲ交換スベク而シテ締約國中ノ孰レカ二國ヨリ之ガ廢棄ノ通告ヲ爲シタル後一箇年ヲ經過スルマデハ其ノ効力ヲ有スベシ

右證據トシテ上記全權委員ハ各々西班牙語並ニ葡萄牙語ヲ以テ認メタル本條約書三通ニ記名調印スルモノナリ

千九百十五年五月二十五日「ブエノスアイレス」市ニ於テ

ラウロ・ミューレル

印

ホセー・ルイース・ムラトウレ

印

アレハンドロ・リラ

印

一一三 十二月十八日 在伯國畑公使ヨリ
石井外務大臣宛

米伯間ニ締結ノ國際平和委員會設置條約伯國

國會通過ノ件

附屬書 國際平和委員會設置ニ關スル米伯條約和訳文

調印シタル一般仲裁條約ノ存スル在ルヲ以テ當國議會ニ於テ本新條約ヲ討議スルニ當リ其蛇足ニ過キササルヲ非難シ之ニ反對ノ説ヲ唱ヘタル議員アリタルモ前記ノ如ク條約全文發表ノ結果トシテ新條約ハ其ノ第一条ニ明記セル如ク兩國間ニ發生スルコトアルヘキ一切ノ國際の爭議ニシテ兩國間ノ現行仲裁條約ノ規定中ニ包含セラレサルモノヲ常設委員ノ審議ニ附託セントスルモノナレハ現行仲裁條約ノ不足ヲ補フモノナルコト判然シタルヲ以テ右ハ伯國力締約調印セル第二回海牙平和條約第一条ノ趣旨ニ適合ストノ理由ヲ以テ容易ニ國會ノ協賛ヲ經タル次第ニ有之候尤モ本條約ハ末タ批准交換及公布ヲ見ルニ至ラス候ヘ共遠カラス此等手續ノ結了ヲ見ルハ明白ニ有之候ニ付不取敢御參考トシテ別紙條約原訳文貴覽ニ供シ候 敬具

註 右條約原文省略

(附屬書)

國際平和委員會設置ニ關スル米伯條約(和譯文)

(一九一五、一〇、六伯國官報議會附錄)

伯刺西爾合衆國及亞米利加合衆國政府ハ兩國ヲ繋合スル所ノ舊誼ヲ新タニ表明センコトヲ欲シ且平和ヲ以テ文明ノ發

達ヲ促進セントノ目的ニ一致シタルヲ以テ將來兩國間ニ惹起サルコトアルヘキ一切ノ爭議ヲ友誼的ニ處理スル爲メ一ノ特殊條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲ニ伯刺西爾合衆國大統領ハ特命全權大使「ドミシオ・ダ・ガマ」氏ヲ亞米利加合衆國大統領ハ「ウィリヤム・ジェニンクス・ブライアン」氏ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ兩全權委員ハ孰レモ其ノ受ケタル委任ニ基キ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締約國ハ兩國間ニ發生スルコトアルヘキ國際的性質ヲ有スル一切ノ爭議ニシテ外交手續ヲ以テ直接ニ解決スルコト能ハサルモノ若クハ兩國間ノ現行仲裁條約ノ規定中ニ包含セラレサルモノヲ此等爭議ニ關シテ調査報告ヲ爲スヘキ常設委員會ノ審議ニ附託スルコトニ同意シ而シテ該審議ノ結果ヲ見ザル間ハ一方ヨリ他方ニ對シテ宣戰ヲ爲シ若クハ敵對行爲ヲナササルコトヲ相約ス

第二條

上記委員會ハ委員五名ヲ以テ組織シ各其ノ任期ヲ五ヶ年トシ左記ノ方法ニヨリ之ヲ任命ス即チ各政府ヨリ二名ヲ指定シ内一名ツツヲ限り之カ任命國ノ人民タルヘシ第五ノ委員

報告ヲ求ムヘシ

委員會ノ會合ハ兩締約國ノ孰レタリトモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘク而シテ成ルヘク事件調査上委員會ニトリ便宜最多キ國ニ於テ執務スヘシ兩締約國ハ右調査上必要ナル一切ノ手段ヲ提供スヘシ

委員會ノ調査報告ハ委員會カ其ノ事業開始ヲ宣言シタル日より起算シ一ヶ年以内ニ之ヲ提出スヘシ但シ兩締約國間ニ期限延長ヲ協定シタル場合ハ此ノ限りニアラス

此ノ調査報告ハ純然タル評議的ノモノニシテ當該問題ニ關シテ兩締約國ヲ拘束セサルモノトシ三通ヲ調製シテ各政府一通ツツ之ヲ受領シ第三ノ一通ハ之ヲ委員會ノ記錄ニ保存スヘシ

第四條

調査報告ヲ兩政府ニ提出シタル時ハ兩政府ハ該報告ニ從ヒ事件處理ノ商議ヲ爲スタメ六ヶ月ノ期間ヲ有スヘシ而シテ此ノ新期限ノ終末ニ至リ協議纏ラサルトキハ若シ該問題カ

ハ兩國政府ノ合意ヲ以テ選定スルモ既ニ委員會ニ代表セラレ居ル孰レノ国籍ニモ屬セサルモノタルコトヲ要ス此ノ第五ノ委員ハ議長ノ職務ノ行フモノトス

兩締約國ノ各一方ハ審議開始前ニハ何時タリトモ其ノ任命シタル委員ヲ罷免シ同時ニ其後任者ヲ出スコトヲ得尚ホ各政府ハ第五委員ニ關シテ其同意ヲ拒ムノ權ヲ有シ此ノ場合ニ於テハ兩政府合意ノ上通告ノ時ヨリ起算シ三十日以内ニ新ニ第五委員ヲ任命スヘシ而シテ合意ヲ得難キ場合ニハ瑞西聯邦大統領ニ之カ任命ヲ請托スヘシ委員會ノ費用ハ兩國政府ニ於テ各其ノ半額ヲ支拂フヘシ

委員會ハ本條約批准交換後六ヶ月以内ニ運用ニ適スル様之ヲ組織スヘシ

委員ハ毎五年ノ期末ニ於テ重任若クハ更迭スヘシ缺員ヲ生シタル場合ニハ最初ノ任命ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ補缺スヘシ

委員會ハ自ラ其ノ手續ノ準則ヲ制定スヘシ

第三條

國際的性質ヲ帶フル或ル問題ノ外交的解決ニ關シ協議纏ラサル場合ニハ兩締約國ハ之ヲ該委員會ニ附托シ其ノ審査及

現行條約(訳註 仲裁條約ヲ指ス)中ニ包含セラルルニ於テハ該條約ニ從ヒ係爭事件ヲ仲裁裁判ニ附托スヘシ

第五條

本條約ハ兩締約國ニ於テ各自國憲法ニ規定セル形式ヲ以テ之ヲ批准シ而シテ其ノ批准ハ十分迅速ニ之ヲ交換スヘシ本條約ハ批准交換後直ニ之ヲ實施シ五ヶ年繼續スヘク其ノ後ハ兩締約國ノ一方カ之ヲ終了セシメントノ意志ヲ他ノ一方ニ通告シタル後十二ヶ月ヲ經過スルマテ其ノ効力ヲ有スヘシ

以上諸條ノ嚴格且忠實ナル履行ハ之ヲ調印國ノ名譽ニ一任スルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ
千九百十四年七月二十四日華盛頓市ニ於テ之ヲ作ル

ドミシオ・ダ・ガマ

(印)

ウィリヤム・ジェニンクス・ブライアン (印)